

果堂資料について

この果堂資料を所蔵して居られた上島善重氏は、安政元年（1854）長岡村（現箕輪町）に生まれ、陸軍士官学校などに学んだ後、陸軍士官として西南戦争・日清戦争・日露戦争に従軍し、特に日露戦争に於いては、重砲隊大隊長として旅順・奉天の対戦に偉勲をたて、陸軍中佐に昇進したという経歴の持ち主である。

陸軍退役後は高遠町に住み、後に推されて大正3年から同6年まで町長を勤めて、高遠町の行政にも参与された。

その後余暇を得て、幼い頃から強い関心を持っていた郷土史についての研究に務め、地域に残された史料を蒐集整理し、数十冊に及ぶ『果堂遺構』（当館では『果堂文庫』という）を残した。中でも郷土の砲術家、坂本天山の砲技に関する研究は、上島氏が砲兵隊の指揮者であったこともあって、『果堂文庫』の中心をなしている。

因みに、『果堂』は、上島氏の文筆上の号である。

この目録中（1）に収録されている資料は、上島氏が研究のために集められた高遠藩の藩政関係の資料である。この中心には『内状』と称する江戸藩邸に勤仕する家老と、在所の高遠城に勤仕する家老との間で、頻繁にやりとりされる、藩政上の諸問題に関する相談の書状が多数見つかった。これらは、少し読み取り難い資料ではあるが、藩の財政問題、人事異動、藩士の賞罰、藩主家族の婚姻など、高遠藩の内情を窺わせる事項が、多岐に亘って内々に語られているところが面白い。

特に高遠藩に永遠流となって、十年近い幽閉の日々を送る大奥取締・絵島の赦免を、幕府の閣僚に働きかける家老達の往復書簡は、この赦免運動が、何故かついに不成功に終わった事と相俟って、非常に興味深い。

（2）に収録された資料は、主として明治以後の上島氏の私的資料であるが、日露戦争関係の諸資料及び陸軍作成の諸地図などは、今は貴重な資料と言えよう。その他、在郷軍人会関係の資料なども多く残されている。

これらの資料を御調べになる際には、『果堂文庫』（別目録あり）も併せてご覧になることをお勧めします。
(平成18年7月)

『果堂資料（3）』は、平成29年（2017）東京の古書店より高遠町図書館が購入したものである。

資料内容は、

- 1.町政および高遠城址関係
- 2.軍事関係（日清・日露戦争）
- 3.図書館関係
- 4.絵地図
- 5.坂本天山他郷土研究資料

に分類されている。